

平成 23 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会
主な Q & A

Q. 上期の ATM 利用促進施策は効果があったか。

A. 一部地域で金融機関や 7-11 店舗とタイアップして使えるカードの認知向上に取組み、当該地域では効果が確認できた。今後とも地道な施策を広げていこうと考えている。

Q. 銀行に対して、利用件数に応じて割引率が変わる制度を導入した効果はあったか。

A. 銀行の総利用件数・収入ともに増加しており、プラスの効果が出ている。

Q. 更なる経費削減余地はあるか。

A. 業務の効率化や不要不急の経費支出をコントロールする等、削減余地はある。

Q. 2012 年までの減価償却費、業務委託費、保守管理費の見通しに変化はあるか。

A. これらは第 3 世代 ATM の入替ペースに影響を受ける経費。展開スケジュールに変化はなく、見通しも変わっていない。

Q. 海外送金のマーケティングはどのように行うのか。

A. 外国人が働く企業、集うコミュニティー等でプロモーション活動を行う予定。様々な国からの外国人にインタビューを行い、彼らのニーズや行動パターンを調査している。

Q. インターネットバンキングと ATM で海外送金サービス開始時期が違うようだが、サービスの内容に違いはあるのか。

A. サービス内容に大きな違いはない。

Q. 自己株買い実施を決めた背景を教えてください。

A. 株価も判断材料の一つだが、本施策は一度限りの株価対策ではない。

成長投資を考慮しても資本に余裕があると判断したので、自己株取得により株主還元を強化し、同時に資本効率を高めることにした。今後も機会を捉えて適切に対応していく。

Q. 他に投資先がないから自己株買いを行うのか。

A. 新事業を検討する中で成長のための投資案件も見えてきている。投資先はあるが、目の優先課題として自己株買いを行うこととした。

Q. 自己株買い完了時の親会社（セブン&アイ・ホールディングス）の持株比率の見通しを教えてください。

A. 親会社が株を売らなければ、自己株買い完了時の持株比率は 1% 程度上昇する。

Q. 銀行等の上場前からの株主が、セブン銀行株を売りたいと申し出た場合の対応は。

A. 株主の判断に任せている。安定株主が放出すれば、流動性が高まるメリットもある。

以上